

平成26年度 事業報告書

平成26年度における重要無形文化財人形浄瑠璃文楽の伝承及び普及事業等の実施にあたっては、文化庁、大阪府、大阪市並びに日本芸術文化振興会（国立文楽劇場）等の関係諸団体との連携・協力をさらに密接にしながら、公演事業への取り組み強化、伝承事業の充実に努めた。

中でも、大阪（国立文楽劇場）・東京（国立劇場）での本公演を始め、協会の自主公演である地方公演、大阪市委託公演及びその他の特別公演等の実施にあたっては、これまでの実績を活かし、より充実した公演活動に努めた。

特に地方公演については、芸術文化振興基金等の助成制度を積極的に活用して、所期の事業成果を収めた。

さらに、文楽の普及啓発と国立文楽劇場への誘客を図るための試みとして、本年度も前年度に引き続き文楽に馴染みの少ない人達に文楽を知ってもらい親しんでもらうため、解説を中心に体験や短時間公演で構成する普及啓発事業を公共施設等で実施した。

1. 公演事業

（1）本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

国立文楽劇場及び国立劇場主催の本公演は、大阪・東京を併せて136日（306回）であった。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/5～27	22日 44回	29,973人
	7/19～8/4	17日 51回	25,243人
	11/1～24	23日 46回	19,177人
	(H27) 1/3～26	23日 46回	23,939人
計		85日 187回 (85日 187回)	98,332人 (84,743人)

東京 (国立劇場)	5/10～26	17日 34回	18,602人
	9/6～22	17日 51回	23,989人
	(H27) 2/14～3/2	17日 51回	20,579人
計		51日 136回 (51日 119回)	63,170人 (57,715人)
合 計		136日 323回 (136日 306回)	161,502人 (142,458人)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、秋季及び春季に全国各地を巡演し、延べ29日間にわたり59回公演し、広く全国各地の文楽愛好家等の期待に応えた。

() 内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
近畿・東北 関東・東海 北陸	9/27～10/18	14日 28回	12,430人
近畿・中国 九州・関東 東海・北陸	(H27) 3/7～28	15日 31回	12,536人
合 計		29日 59回 (25日 49回)	24,966人 (20,081人)

(3) 青少年を対象とした公演（国立文楽劇場・国立劇場主催、大阪市委託）

青少年を対象とした公演は、国立文楽劇場及び国立劇場主催の「文楽鑑賞教室」を大阪（14日28回）・東京（13日24回）で実施したほか、同じく国立文楽劇場及び国立劇場主催による若手技芸員を中心とした「若

手公演」を大阪（２日２回）・東京（１５日１５回）で実施した。

さらに大阪市委託事業である「小・中学生のための芸術体験授業」公演を開催し、青少年を中心とした文楽の普及活動等に努めた。

①文楽鑑賞教室（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	6/6～19	14 日 28 回 (14 日 28 回)	1 9, 3 4 0 人 (1 6, 4 6 1 人)
東 京 (国立劇場)	12/4～16	13 日 24 回 (13 日 24 回)	1 3, 1 4 7 人 (1 3, 1 4 6 人)
合 計		27 日 52 回 (27 日 52 回)	3 2, 4 8 7 人 (2 9, 6 0 7 人)

②若手公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	6/21～22	2 日 2 回	1, 3 7 6 人
東 京 (国立劇場)	6/28～29	2 日 2 回	1, 0 9 1 人
東 京 (国立劇場)	12/4～16	13 日 13 回	7, 0 2 8 人
合 計		17 日 17 回 (15 日 15 回)	9, 4 9 5 人 (8, 1 2 5 人)

③「小・中学生のための芸術体験授業」公演（大阪市委託事業）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大阪市内 小・中学校	(H27) 1/30・31 2/3・4・5・6 ・3/10	7 日 7 回 (6 日 6 回)	2, 1 5 0 人 (2, 3 0 4 人)

(4) 特別公演事業

京都ギオンコーナーへの出演を始め、中日劇場、内子座（愛媛県）、博多座のほか、日本スイス国交樹立150周年記念のスイス公演など大小26件の公演等を実施した。

①国内の主な特別公演事業

（ ）内は、前年度実績

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
京都 ギオンコーナー	4/1～11/30 (H27)3/13～3/31	2 5 9 日 (260 日)	5 7, 5 3 4 人 (5 3, 2 1 7 人)
中日劇場	5/31～6/1	2 日 4 回 (3 日 4 回)	3, 2 1 4 人 (4, 6 0 9 人)
大阪府立 河南高校	7/11	1 日 1 回	9 5 0 人
内子座	8/23～24	2 日 4 回	1, 8 2 0 人 (1, 5 8 5 人)
二条城・文楽公演	10/18	1 日 2 回	2 8 7 人
日経文楽の夕べ	11/27	1 日 1 回	1, 0 0 0 人 (1, 1 6 1 人)

博多座	12/20～21	2日 4回	3,988人 (4,216人)
追手門学院中学	(H27) 3/9	1日 1回	315人
にっぽん文楽プロジェクト (六本木)	(H27) 3/18～22	5日 8回 (雨天休演 1回)	1,915人

②海外公演事業

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
スイス公演	9/25～10/15	7日 7回	3,595人

(5) 大阪市補助金「集客数連動型文楽振興補助」に関連する国立文楽劇場観客数

本公演（4月、7・8月、11月、(H27) 1月）	98,332人
文楽鑑賞教室（大阪・6月）	19,340人
合 計	117,672人

(参考)

大阪市補助金「集客数連動型文楽振興補助」とは、

- ・国立文楽劇場における本公演及び文楽鑑賞教室の有料入場者数に応じて補助金の額が決まる。(インセンティブ方式)
- ・有料入場者数が9万人以下の場合は、本補助金は「0」、10万5千人以上の場合は、本補助金の上限額の「2,900万円」となる。
9万1人から10万5千人未満の場合は、9万人を超えた入場者数を1万5千人で除したものに上限額を乗じた額とする。
- ・1月公演の終了後、年間有料入場者数が確定した時点で、本補助金の申請を行い、その後、補助金額の確定通知が届く。

(入金：3月31日)

2. 伝承事業

本年度の契約技芸員数及び内訳は、次のとおりである。

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
85名	23名	21名	41名

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導に重点をおいた取り組みを推進するとともに、技芸員の舞台活動を支援するために舞台活動に必要な着付、黒衣、三味線等の購入等に際し助成を行った。

また当協会・国立文楽劇場が連携して若手技芸員による自発的な勉強会の開催に対して積極的な協力・助成を行った。

さらに、真摯な舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し文楽協会賞を贈った。

(1) 若手技芸員発表会

平成26年 8月 5日 蝠聚会（国立文楽劇場小ホール）

平成26年11月27、28日 十色会（ドーンセンター（大阪市））

(2) 文楽協会賞表彰

3名 （豊竹芳穂大夫、鶴澤寛太郎、吉田和馬）

3. 後継者育成事業

文楽の技芸員を目指して独立行政法人日本芸術文化振興会の文楽研修生として2年間の研修を受ける者並びに師匠格の技芸員に入門し文楽協会の研究生として技量を磨く者等に対して、助成を行った。

・研修生に養成貸付金（3名 108万円）の貸与を行った。

・研究生に研究用品料及び交通費（東京公演の旅費、宿泊費等を含む。2名

962,470円)を支給した。

- ・研究生から技芸員となった者に奨励金(1名 36万円)を支給した。

4. 普及啓発事業

これまで文楽に馴染みの少なかった人達に、文楽を知ってもらい親しんでもらうため、さらに国立文楽劇場への誘客を図るため、解説を中心に体験や短時間公演で構成する普及啓発事業を公共施設等で実施した。

- ・普及啓発事業

実 施 場 所	公 演 日
サンスクエア堺(堺市堺区)	7月 8日
大阪弁護士会館(大阪市北区)	8月21日
大阪府咲洲ホール(大阪市住之江区)	(H27) 2月 1日
クレオ大阪北(大阪市東淀川区)	(H27) 2月 7日

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。